

# 令和4年度報徳看護専門学校自己点検・自己評価報告書

## 1. 学校のディプロマポリシー(卒業時の学生像)

1. 人を尊重できる姿勢と高い倫理観をもった看護実践ができる。
2. 感性豊かな人間性が備わっている。
3. 対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解し、受け入れられる。
4. 対象のニーズを考える視点をもち科学的思考に基づいた看護を実践できる。
5. 保健・医療・福祉チームの一員として協働・連携する自覚ができる。
6. 専門職として継続学習や専門性探求のための主体的学習ができる。
7. 自己の心身の健康を維持し、自己の行動に責任をもつことができる。

上記ディプロマポリシーについてルーブリックを用いて評価した。

### 各学年のディプロマポリシー達成目標レベル

学年達成目標	レベル1 (1年終了時)	必要性がわかる、知識としてわかる。
	レベル2 (2年終了時)	必要性がわかり、一部行動できる。
	レベル3 (3年次前期)	支援を受けて実践できる。行動できる。
	レベル4 (3年実習終了時)	少しの支援で実践できる。行動できる。

表1 各学年目標に達成した割合

項目	1年 (レベル1)		2年 (レベル2)		3年 (レベル4)	
	学生数34人		学生数25		学生数39	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
1 人間尊重に基づいた倫理観のある看護実践能力	20	(58.8)	20	(80.0)	31	(79.5)
2 感性豊かな人間性が備わっている	23	<u>(67.7)</u>	23	<u>(92.0)</u>	35	(89.7)
3 統合的对象理解と他者を受け入れる能力	17	(50.0)	18	(72.0)	28	(71.8)
4 科学的思考に基づいた看護実践能力	18	(52.9)	18	(72.0)	28	(71.8)
5 チームとしての連携・協働	22	<u>(64.7)</u>	21	(84.0)	30	(76.9)
6 継続学習、主体的学習習慣、姿勢	18	(52.9)	18	(72.0)	26	<u>(66.7)</u>
7 自己の心身マネジメントと責任	20	(58.8)	17	(68.0)	31	(79.5)

各学年の4段階のディプロマポリシー達成目標レベルの達成状況を表1に示した。

表1より、1年では全ての項目で50%以上達成しており、特に「2感性豊かな人間性」「5チームとしての連携・協働」は60%以上達成した。

2年では「2感性豊かな人間性」の90%台を最高に、それ以外の6項目全てがほぼ70%以上達成している。

3年では、約70%が目標を達成したと回答している。

1年の低い項目については、授業・演習での基本的知識・技術の強化、学習習慣の確立や学習への動機付けが課題である。新カリキュラム初年度である今年は、COVID-19により看護の体験実習が学内となった。次年度は臨地での経験により学習の動機付けとなるよう指導していくことが必要である。

2年では、「3統合的对象理解と他者を受け入れる能力」「4科学的思考に基づいた看護実践」

「6 継続学習と主体的な学習習慣」「7 心身マネジメントと責任」において、約 30%の学生が達成していない。アセスメントに必要な基礎知識の定着、学習方法と学習習慣の確立、自己の心身管理が課題と考えることができる。2 年終了時までには学校生活においてこれらの課題達成へ向けた指導を強化する必要がある。

3 年は 4 月から 11 月まで臨地実習教育が行われている。約 70%の学生は実習での経験からも自身の課題を見出し、成長を自覚し自己効力感を高めることができていると考えられる。特に「2 感性豊かな人間性」は 89.7%の学生が達成したと回答しており、低学年からの本校の教育や臨地実習を通じた他者との関りから、看護師として重要な人間性を身に付けたと考えることができる。一方、「6 継続学習、主体的学習習慣、姿勢」は 66.7%の達成状況であり、2 年より低下している。これは 3 年が臨地実習を中心とした学修形態にあることから、時間的制約のある中で重複した学習課題を達成することが求められること、目標達成へ向け学習時間を確保し実習の準備を十分に行う集中力や学習習慣が確立してないことなどが原因と考えられる。

これらは 2 年の学習課題の延長と考えることができ、低学年で必要な知識を得られるための学習方法と学習習慣を確立することが、3 年での臨地実習教育を効果的にしていく課題と言える。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

令和3年度の評価結果を基に、令和4年度の活動目標を以下のように設定し取り組んだ。

### 1) 令和4年度活動目標（重点目標）

1.	新カリキュラムに基づく教育を実践し、教育効果を評価する。
2.	教育理念・目的・ディプロマポリシーを学生に意識付け、学生が常に目標を明確にできるよう支援をする。
3.	社会に求められる看護師育成のための教員の資質向上に努め、得た知識・技術を共有し高め合う。
4.	本校の特色を意識し、活発な広報活動による、入学定員の確保に努める。
5.	卒業生のキャリア形成状況の把握と在校生との交流の機会をつくる。
6.	IT化の促進と業務の効率化の両立に努め、かつ情報管理の徹底を図る。

### 2) 重点目標の自己点検・自己評価項目による評価

	重点目標	自己点検・自己評価項目	項目の平均点	
			R4年度	R3年度
1	新カリの実践と評価	3) ①②③④⑤	3.5	3.3
2	教育理念・目的・DPの学生への意識付け	1) ④	3.4	3.2
3	教員の資質向上の取り組みと共有	3) ⑩⑪⑫⑬	3.4	3.2
4	本校の特色意識、広報活動による入学定員確保	7) ④⑤	3.5	3.3
5	卒業生の状況把握と在校生との交流	4) ④⑤	3.1	2.5
6	IT化の促進と効率化、情報管理	2) ⑦	3.1	2.9
7	ボランティア活動、SDGsの支援、社会貢献・地域貢献	10) ①②③	3.0	2.7

すべての項目で、昨年と比べて点数の上昇がみられ、改善しているといえる。

目標1は、新カリキュラム構築時に全員で話し合ったことでカリキュラム内容を意識した教育実践ができた。今後、新カリキュラム実施後の評価を適時していく必要がある。

目標2は、新カリキュラム構築時に理念やディプロマポリシーを学生にわかりやすい表現に心がけたが、学生の解釈には偏りがあり学生の行動の指針として浸透しているとはいえない。授業や実習で学生が常にディプロマポリシーを意識できるよう働きかけていくことが必要である。

目標3は、研修や研究会に昨年より多く参加できたが、学会への参加は少ない。さらに学んだことの共有も十分とはいえず、学びを共有して教育実践に活かす体制をつくる必要がある。

目標4は、ホームページのリニューアル、ガイダンスや高校訪問等協力して広報活動が実施できた。ホームページでは特色の明確化や見やすさを検討しアピールしていく必要がある。

目標5は、ホームカミングデーを実施したことで、卒業生の現状把握の一端となり、教育活動の改善につながる情報が得られた。さらに方法の改善により参加者の増加と在校生との交流を計画する必要がある。

目標6は、Wi-Fiの整備により情報化システムの環境改善が図れた。しかし、トラブル時の対応などの情報共有、業務の効率化までは至らず、協力体制の強化が必要である。

目標7は、いちご一会障害者スポーツ大会サポーター活動やリレーフォーライフ参加、SDGsの取り組みにより社会貢献ができた。公開講座や学校祭の一般公開などの地域貢献が必要である。

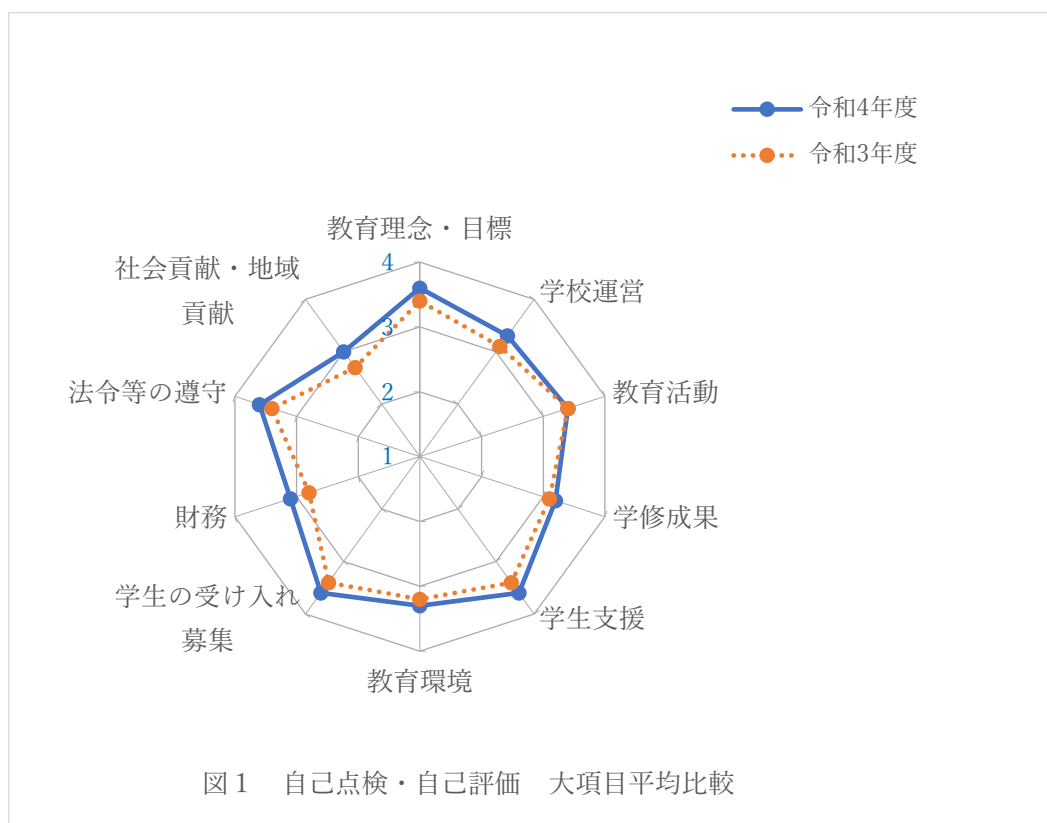
### 3. 令和4年度自己点検・自己評価の実施・結果

- 1) 実施日：2023年1月16日～2023年2月3日
- 2) 対象者：全教職員20人（教員15人、事務職5人）
- 3) 評価項目：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って実施したが、実施にあたり昨年度と同様に、全員が共通理解し適切な評価が行われるよう評価項目を見直した。大項目はレーダーチャート（図1）に示す。
- 4) 評価基準：

4 適切(当てはまる)
3 ほぼ適切(ほぼ当てはまる)
2 やや不適切(あまり当てはまらない)
1 不適切(当てはまらない)

- 5) 結果の大項目年度比較と課題：

令和4年度自己点検・自己評価の結果は、全体平均3.3であった。令和3年度の3.1より0.2上昇した。特に上昇したのは「財務」と「社会貢献・地域貢献」である。これらは昨年度の評価において平均点が3.0以下の項目であったが、どちらも0.3上昇し、3.0以上となった。今年度3.0を下回る項目は無かったが「社会貢献・地域貢献」は、全項目中最低値であったため、今後も力を入れて対策する項目と考える。



#### 4. 評価項目の結果と課題

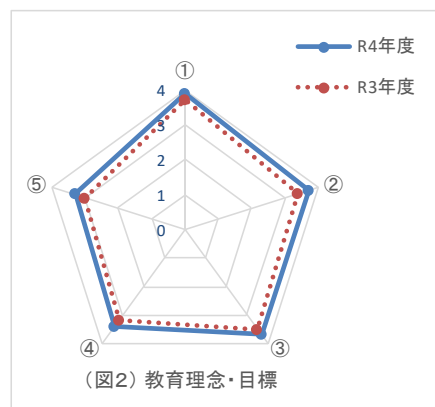
##### 1) 教育理念・目標(図2)

各項目の平均点及び総平均点は昨年度を上回った。

昨年度は、『本校の看護教育の特色の明確化』、『理念・教育目的・卒業時の学生像を学生に浸透させる』、『新カリキュラムに取り入れた地域社会のニーズを考慮した実践をする』が課題であった。教育理念・教育目標の学生便覧への明示や、DPの明確化および学生・教員間での共通認識を持てるための表現の改善を行った。DPは学習の節目に学生が自己評価を行っている。今年度の平均点からも、十分ではないがDPは指針として学生に浸透してきていると言える。

今後も『理念・教育目的・卒業時の学生像を学生に浸透させる』ことは課題である。DPの評価の機会等を通し、学生に浸透するよう取組む必要がある。また、『新カリキュラムに取り入れた地域社会のニーズを考慮した実践をする』については、今年度より新カリキュラムの運用が開始されたことにより実践に取り組んでいると言えるが、今後も課題である。

評価項目	平均点	
	R4年度	R3年度
① 教育理念・教育目的・卒業時の学生像（またはDP）を明文化している。	3.9	3.7
② 学校における看護教育の特色が定められている。	3.7	3.4
③ 教育理念、教育目的、卒業時の学生像（またはDP）は教職員の教育活動の指針になっている。	3.7	3.5
④ 教育理念、教育目的、卒業時の学生像（またはDP）は学生の学習活動の指針として浸透している。	3.4	3.2
⑤ 教育目標・卒業時の学生像（またはDP）は地域社会のニーズを踏まえている。	3.3	3.0
<b>総平均点</b>	<b>3.6</b>	<b>3.4</b>



## 2) 学校運営(図3)

評価項目の「④人事、給与に関する制度の諸規定への明文化と教職員への周知」が2.9と、評価基準の「3 ほぼ適切(ほぼ当てはまる)」をやや下回ったが、各項目の平均点及び総平均点は昨年度を上回った。

昨年度は『施設設備の改善計画、将来構想の明確に示すこと』、『人事・給与に関する制度の明文化と職員への周知』、『情報システムをさらに向上させ、その上での業務の効率化について具体的に考えること』が課題であった。これらの項目は、昨年度よりも平均点が上昇しているが、さらに改善に取り組む必要がある。

『施設設備の改善計画、将来構想の明確に示すこと』については、学習活動に支障は来していないものの設備の老朽化が進んでおり、今後改善計画を検討する必要がある。

『人事・給与に関する制度の明文化と職員への周知』については、周知の機会や場を設けるなどの対策が必要であると考えます。

『情報システムをさらに向上させ、その上での業務の効率化について具体的に考えること』については、アプリケーションの導入等を積極的に行ったが、操作などを熟知するまでに時間を要することもあった。今年度学校のホームページを新しくしたことにより、学生への連絡等今後一層の業務の改善が期待できる。

評価項目	平均点	
	R4年度	R3年度
① 教育目的に沿った教育方針・活動目標が明確化し運営	3.6	3.4
② 事業計画に沿った財政基盤、施設設備、運営計画と将来構想の明文化	3.2	2.9
③ 運営組織や意思決定システムの諸規定への明文化、運営会議および教職員会議等への反映と機能	3.5	3.2
④ 人事、給与に関する制度の諸規定への明文化と教職員への周知	2.9	2.7
⑤ 教務及び事務の組織の整備、校務分掌の明文化	3.5	3.1
⑥ 教育活動に関する情報公開、自己評価結果の公開	3.5	3.4
⑦ 情報システム化等による業務の効率化	3.1	2.9
⑧ 学校運営への学生の意見の反映、学生主体の運営活動の場での反映	3.1	3.0
総平均点	3.3	3.1

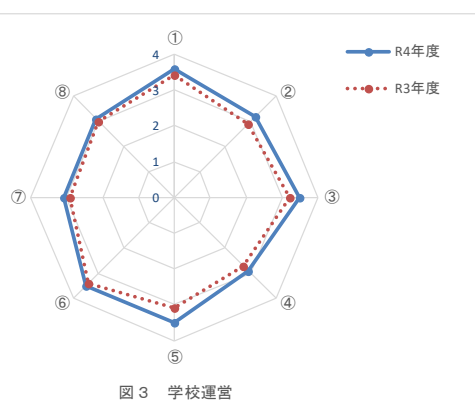


図3 学校運営

### 3) 教育活動(図4)

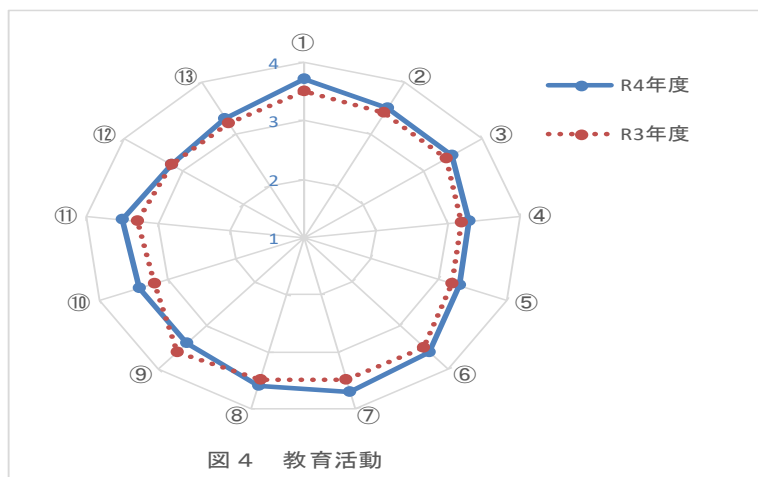
総平均点は、昨年度と同様であり、また、ほとんどの項目が昨年度の平均点を上回った。

昨年度は『新カリキュラムの中で位置づけを明確にしたこと、改善したことの結果が出るよう実践することとその評価をすること』、『教員の資質向上にさらに努めること』が課題であった。

『新カリキュラムの中で位置づけを明確にしたこと、改善したことの結果が出るよう実践することとその評価をすること』については、今年度より新カリキュラムの運用が開始され、今後とも実践に取り組み続け評価に繋げたい。

『教員の資質向上にさらに努めること』については、新カリキュラム開発への取組のために休止していた教員の夏期研修会を再開したことで教員の資質向上の機会が得られた。今後も機会を設け、教員の資質向上へ取組みたい。

評価項目	平均点	
	R4年度	R3年度
① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等の策定	3.7	3.5
② 教育理念、育成人材像を踏まえ、教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保の明確	3.5	3.4
③ カリキュラムの学習内容にまとめ、順序性をふまえて構築	3.5	3.4
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラム、教育方法の工夫・開発などの実施	3.3	3.2
⑤ 関連分野の関係施設等との連携によるカリキュラムの作成と見直し	3.3	3.2
⑥ 授業評価の実施・評価体制	3.6	3.5
⑦ 職業に関する外部関係者からの評価の取り入れ	3.7	3.5
⑧ 成績評価・単位認定の基準は明確化	3.6	3.5
⑨ 資格取得の指導体制、カリキュラムとの関連した位置づけ	3.4	3.6
⑩ 卒業時の学生像（DP）への育成に向け授業のための教員の資質向上の取組み	3.4	3.2
⑪ 授業が実務経験のある優れた教員により行われたための関連分野との連携	3.5	3.3
⑫ 先端的知識・技能を修得のための研修や指導力育成など資質向上のための取組み	3.2	3.2
⑬ 職員の能力開発のための研修、学会等への参加	3.3	3.2
<b>総平均点</b>	<b>3.4</b>	<b>3.4</b>



#### 4) 学修成果(図5)

評価項目の「③退学率の低減への取組み」が2.9であり、評価基準の「3 ほぼ適切(ほぼ当てはまる)」をやや下回ったが、総平均点は昨年度を上回った。

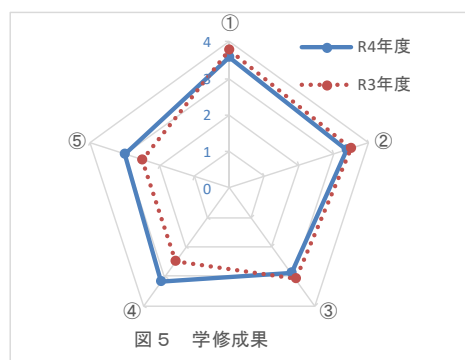
昨年度は『卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価の把握』、『卒業生のキャリア形成の状況を把握し、卒業生と在校生の交流の機会をつくる』を実践し、教育活動の改善に活用することが課題であった。学校関係者評価委員会からも助言を頂き改善に取り組んだ。

今年度、13期生(令和3年度卒業生)を対象にホームカミングデーを開催し、卒業生の状況を把握する機会とすることができた。ホームカミングデーは今後も継続する予定である。

今後は、『退学率低減への取組み』と『資格取得率(国家試験)向上への取組み』が課題である。『退学率低減への取組み』については、早期から学生の変化に気づけるよう教員間での情報共有等へ取組み学生の学業継続を可能な限り支援する必要がある。

『資格取得率(国家試験)向上への取組み』については、学習状況や模擬試験での成績の速やかな把握等を今後も継続し学習対策を支援する必要がある。

評価項目	平均点	
	R4年度	R3年度
① 就業率向上への取組み	3.6	3.8
② 資格取得率(国家試験)向上への取組み	3.4	3.5
③ 退学率の低減への取組み	2.9	3.1
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価の把握	3.2	2.5
⑤ 卒業生のキャリア形成への効果の把握、学校の教育活動の改善への活用	3.0	2.5
総平均点	3.2	3.1



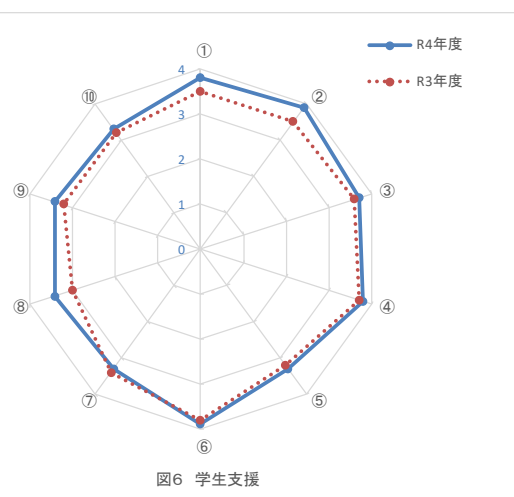


## 5) 学生支援(図6)

各項目の平均点は、おおよそ昨年度を上回り、また、総平均点も上回った。

昨年度は『課外活動に対する学生への支援体制の問題の把握と改善』『担当を中心とした卒業生への進学、就労に関する支援の機会をつくる、体制をつくる』、『ニーズを確認し、それを踏まえた教育環境の整備』、『専門的技能の育成や職業的自立に向けた臨床との連携のさらなる強化』が課題であったが、平均点は昨年度とおおよそ変わらず今後も課題として継続した対策が必要と考える。卒業生への支援は、今年度から実施したホームカミングデーの機会の活用などへ取り組みたい。

評価項目	平均点	
	R4年度	R3年度
① 進路・就職に関する支援体制は整備	3.8	3.5
② スクールカウンセラーの配置など学生の健康や学生相談に関する体制を整備	3.9	3.5
③ 学生の経済的側面に対する支援体制の整備	3.7	3.6
④ 学生の健康管理を担う組織体制	3.8	3.7
⑤ 課外活動に対する支援体制の整備	3.3	3.2
⑥ 学生の安全管理（災害共済保険加入等）	3.9	3.8
⑦ 保護者への定期的な情報提供	3.3	3.4
⑧ 卒業生への進学、就労に関する支援体制の整備	3.4	3.0
⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備	3.4	3.2
⑩ 専門的な技能の育成および職業的自立に向けた支援体制と臨床との連携	3.3	3.2
総平均点	3.6	3.4

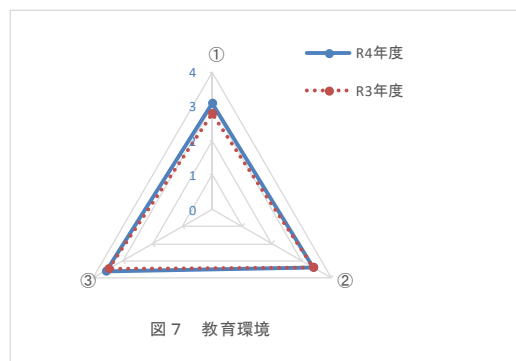


## 6) 教育環境(図7)

各項目および総平均点はともに昨年度の平均点以上となった。

昨年度は『環境の整備、教育のための機器の整備、新しい教材の導入等に計画的に取り組むこと』が課題であった。今年度の「①施設・設備の教育上の必要性に十分対応した整備」は3.1と昨年度より上昇したが、平均点が低めであることから、今後も課題として対策が必要である。施設・設備の修理や機材の新規購入等具体的な計画が必要である。

評価項目	平均点	
	R4年度	R3年度
① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応した整備	3.1	2.8
② 実習目標が達成されるよう実習環境の整備	3.4	3.4
③ 防災訓練を含め、防災に対する体制の整備	3.6	3.5
総平均点	3.3	3.2



## 7) 学生の受け入れ募集(図8)

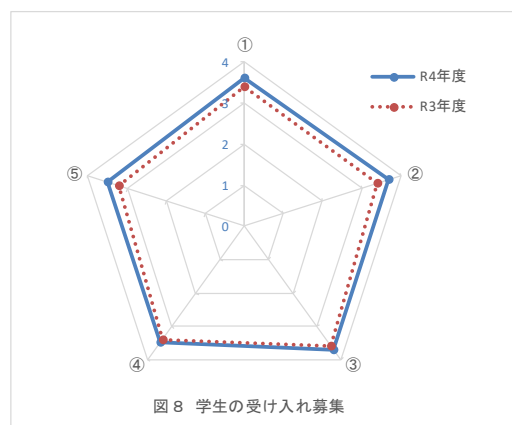
各項目の平均点及び総平均点は昨年度を上回った。

昨年度は『募集活動に SNS の活用』、『さらなる活発な広報活動』、『広報活動について教職員への周知と一丸となつての広報』が課題であった。

募集活動等は会議を通し、活動の内容や結果が周知されており改善に向けて取組まれた。

今年度は「④学生の受け入れ方針に基づく入学者選抜の制度や運営体制の整備、入学者選抜の適正な実施」と「⑤志願者状況、定員充足率の分析・評価を募集活動の向上への活用」の平均点がやや低い。学生の受け入れ方針はアドミッションポリシーにより明確化されており、入学者選抜の適性実施に向け指針となっている。また、今年度、学校のホームページがリニューアルされた。これによりホームページ内の SNS 等を活用のうえ、学校関係者評価委員会から助言を頂いたように、幅広い対象者へ向けた募集活動への一層の取組みが期待できる。『募集活動に SNS の活用』、『さらなる活発な広報活動』を課題として今後も取り組みたい。

評価項目	平均点	
	R4年度	R3年度
① 学生募集・広報活動の時期、方法は効果的かつ適正	3.6	3.4
② 学生募集活動で、資格取得・就職状況情報の正確な伝達	3.7	3.4
③ 学納金（入学や在学中に係る費用等）の情報の明示	3.7	3.6
④ 学生の受け入れ方針に基づく入学者選抜の制度や運営体制の整備、入学者選抜の適正な実施	3.5	3.4
⑤ 志願者状況、定員充足率の分析・評価を募集活動の向上への活用	3.5	3.2
総平均点	3.6	3.4



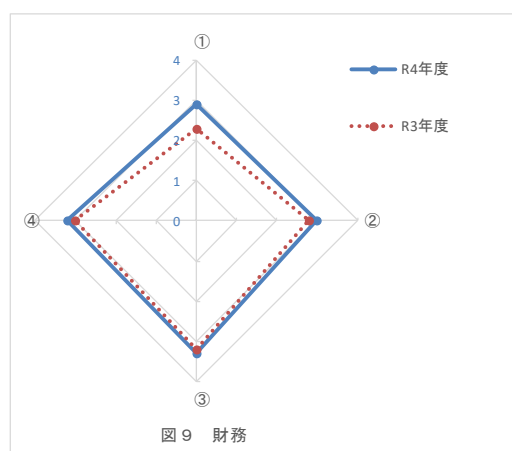
## 8) 財務(図9)

評価項目の「①中長期的に学校の財務基盤の安定」が2.9であり、評価基準の「3 ほぼ適切(ほぼ当てはまる)」をわずかに下回ったが、各項目の平均点および総平均点は昨年度を上回った。

昨年度は『さらなる学生募集に努力し、定数充足率を上げていくこと』、『新カリキュラムの実習施設増加と実習費の妥当性の検討』が課題であった。

今年度は、過去3年間の財務状況および電力料金比較が示された。これによると過去3年間の使用電力および電力料金は上昇傾向にある。財政基盤の不安定は在籍学生数のみならず電力使用からも影響を受けるため、『学生支援および電力消エネルギーへの活動を通じた財政基盤の安定』が課題である。学生募集活動やエアコンの設定温度の調整と教室のこまめな消灯など電力省エネルギーへ取組みたい。

評価項目	平均点	
	R4年度	R3年度
① 中長期的に学校の財務基盤の安定	2.9	2.3
② 予算・収支計画は有効かつ妥当	3.0	2.8
③ 財務について法人の会計監査の適正さ	3.3	3.2
④ 法人としての財務情報公開の体制整備	3.2	3.0
総平均点	3.1	2.8



## 9) 法令等の遵守(図10)

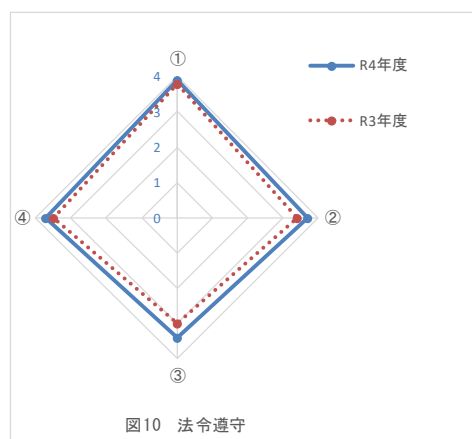
各項目の平均点及び総平均点は昨年度を上回った。

昨年度は『自己点検・自己評価の結果からの具体的改善策を検討し、実施していくこと』、『IT化に伴うスムーズな情報提供に合わせたさらなる情報管理の徹底』が課題であった。

自己点検・自己評価の結果は、報告書の教職員への配布により周知されているが、その後の具体的な改善策の検討の必要性が今年度の結果からも伺える。

職員会議等を機会に課題を共有し具体的な改善の検討へ取組みたい。

評価項目	平均点	
	R4年度	R3年度
① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営	3.9	3.8
② 個人情報に関し、その保護のための対策	3.7	3.4
③ 自己評価の実施と問題点の改善	3.4	3.0
④ 自己評価結果及び学校関係者評価結果の学校のホームページへの掲載と閲覧制限ない公開	3.7	3.5
総平均点	3.6	3.4



## 10) 社会貢献・地域貢献(図 11)

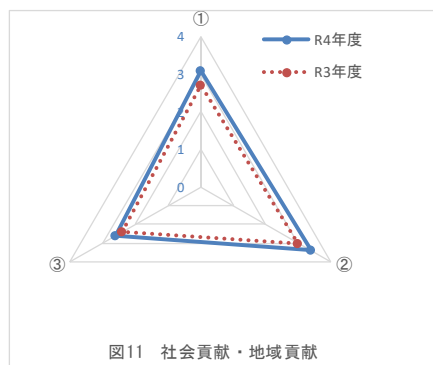
評価項目の「③地域に対する公開講座の受託等を積極的实施」が2.6であり、評価基準の「3 ほぼ適切(ほぼ当てはまる)」を下回ったが、各項目の平均点および総平均は昨年度を上回った。

昨年度は『積極的な社会貢献・地域貢献を目指す』、『栃木県と宇都宮市のSDGsの学生中心の取り組みをさらに拡大させる』、『可能な形で学校の資源を広く公開し貢献する方策を検討し実施する』が課題であった。

『積極的な社会貢献・地域貢献を目指す』については、今年度“いちご一会大会”へ学生がボランティアで参加できた。また、『栃木県と宇都宮市のSDGsの学生中心の取り組みをさらに拡大させる』については、学生が中心となったエコ活動を通しペットボトルのキャップ回収運動や電力省エネルギー活動に取り組めた。

『可能な形で学校の資源を広く公開し貢献する方策を検討し実施する』については、次年度より新型コロナウイルス感染症が感染症分類5類に引き下げられることにより学校祭の再開が見込まれる。よって、今後も課題とし学校祭や基調講演等の一般公開などを検討し、社会貢献・地域貢献・公開講座受託等の積極的実施として取り組みたい。

評価項目	平均点	
	R4年度	R3年度
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献	3.1	2.7
② 学生のボランティア活動を奨励・支援	3.4	3.0
③ 地域に対する公開講座の受託等を積極的実施	2.6	2.4
総平均点	3.0	2.7



「令和4年度 報徳看護専門学校自己点検・自己評価結果」を基に学校関係者評価を行った結果を報告いたします。

1. 学校関係者評価委員

- ・実習施設の看護部長又は副看護部長
- ・医療法人報徳会統括事務長
- ・同窓会会長
- ・保護者代表

2. 評価結果

(1) 学校のディプロマポリシー(卒業時の学生像)の評価について

- ・「6 継続学習、主体的学習習慣、姿勢」「7 自己の心身マネジメントと責任」について約30%の学生が達成していないとあるが、専門職として看護師というのは常に学んでいく職種だということを、学生のうちから意識づけて生活して行くことが常に大事である。
- ・「6 継続学習、主体的学習習慣、姿勢」について臨地実習を中心とした学習形態が原因になっていると書いてあるが、具体的にそのことが原因なのかをもう少し分析してほしい。
- ・表1の7項目の評価について、一番難しい「人間尊重に基づいた倫理観」「感性豊かな人間性が備わっている」というところについて具体的な評価の検討が必要である。

(2) 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目的や計画

- ・目標5のホームカミングデーについて、今年は6月に実施することに決めたようだが、6月は、看護協会の合同研修の時期と重複しているので次回は時期を検討してほしい。又、継続して行うのであれば主旨を学生の時に話しておくのと参加し易いのではないかと。なお、内容的に配慮する環境を変える取り組みが必要ではないか。

(4) 評価項目の結果と課題

- ・「4)学習成果」について、今年は何らかの対策等を考えながら合格率を上げていこうという取り組みを検討してほしい。又、既卒者の国家試験については、基本的な学力を付けてあげないと合格に結びついていかないと

思う。

- ・国家試験について、今年からはアセスメント能力が求められる問題になっている。学生のうちにアセスメントをする力を学べれば良いと思う。
- ・「資格取得向上への取組」等について、授業に参加した際に学生から勉強方法が分からないと言われる。勉強方法を教えていくことも大切である。
- ・「5)学生支援(スクールカウンセラーの設置)」について、評価が上がっているが今後も具体的にどのような形での支援を行っていくか検討してほしい。
- ・「6)教育環境」について、演習の授業で機器が使えないものがあるので修理を計画的に行っていただきたい。
- ・「7)学生の受け入れ募集」について、学生の募集活動でSNSを活用していただきたい。

#### (5)その他

- ・全体的に、目的を持って達成していくという頻度が多く非常に良い傾向といえる。今年度は改善がかなり出来ている。
- ・クラス全体の国家試験に向けた雰囲気づくりも大切であり、皆で国試に向けて進んで行こうという雰囲気作りも重要である。

おわりに

本年度も文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドラインに基づいた学校評価」および「学校関係者評価」を実施し、公表することができ多くの方々のご指導をいただく機会を作れたことをうれしく思います。本年度は新カリキュラムがスタートし、戸惑うこともありながら、新しい教育成果に期待し教育活動を進めてまいりました。

前年度の評価結果をもとに解決すべきことを、本年度の重点目標として具体化して取り組んだことで、本年度の評価は全体的に昨年よりよい結果となりました。特に学生へのディプロマポリシーの意識付け、ホームカミングデー開催による卒業生の支援、ボランティア活動の支援による地域貢献等の点での改善がみられました。今年度の教職員の評価及び学校関係者委員会の評価から明確になった課題について、次年度の活動目標として取り組んでまいります。外部評価をいただくことや公表することにより改善への取り組みがより加速することを実感しています。まだまだ課題は多くありますが、社会に求められる看護師の育成に向けて一歩ずつ前進してまいりたいと思います。

令和5年6月  
報徳看護専門学校

【お問い合わせ先】

住 所：栃木県宇都宮上横田町 1302-12

電話番号：028-688-4040（代）

報徳看護専門学校

学校評価委員会